

## 国登録有形文化財（建造物）の登録について

- 1 名称 仙波家住宅<sup>おもや</sup>主屋、<sup>ろじもん</sup>露地門及び塀
- 2 所有者 個人
- 3 所在地 松山市北久米町 394 番地
- 4 建設年代 主屋：明治 33 年(1900)  
露地門及び塀：明治 33 年頃
- 5 登録基準 一、国土の歴史的景観に寄与しているもの（露地門及び塀）  
二、造形の規範となっているもの（主屋）
- 6 特徴・評価

仙波家住宅は松山市北久米町に所在する農家の住宅で、明治 33 年(1900)に建設された。敷地中央に位置する<sup>おもや</sup>主屋は<sup>いりも</sup>入母屋造<sup>やづくりさんがわらぶき</sup>棧瓦葺の住宅で、つし二階建である。出入口のある東側に広大な土間、西側に居室部を配し、庭園に面する南西隅の座敷には床の間を設ける。床の間には良質な<sup>つがざい</sup>柁材を使用し、室内を<sup>くみこ</sup>組子や<sup>らんま</sup>彫刻欄間で飾るなど、格式の高さを感じさせる。

<sup>ろじもん</sup>露地門及び塀は、主屋南側に作られた庭園の出入口とその両脇に続く塀で、主屋と同時期に建てられたと推定される。<sup>きりづまづくりほんがわらぶき</sup>露地門は<sup>いっけんいっこやくいもん</sup>切妻造本瓦葺の一間一戸薬医門で、屋根の棟に<sup>しやちほこがわら</sup>鯨瓦を載せた重厚な造りとする。仙波家住宅は、明治時代の上層農家の住宅を良好な状態で今に伝えるものとして歴史的価値が高い。



①仙波家住宅主屋



②仙波家住宅露地門及び塀